

—— 訪 問 講 義 ——

2002年から始めた「訪問講義」は20年目となりました。社会の第一線で活躍する同窓生の実体験に基づくエピソードを直接聴く貴重な機会であり、西高のモットーである「授業で勝負」の一環として定着しています。学校や PTA からも高い評価を受け、西高の対外的 PR でも紹介されています。なお2021年度も前期の2回はコロナ禍のため、残念ながら中止となりました。

国家公務員の仕事と生活～パパママ調査官の奮闘記～

2021/12/18(土) 午前の部

小林(大久保)佳愛 (56期) 会計検査院第4局文部科学検査第1課 課長補佐

受講者：生徒40名・保護者39名

大学や職業などの進路を選んだ経緯・国家公務員という仕事のやりがい・会計検査院の仕事について「自分の目で見て、自分の耳で聞くこと」「アンテナを広く張ること」の大切さをベースに話され、さらには育児休暇を活用した共働きの実態についても「自分なりの軸を作る」ことやワークライフバランスの観点から分かりやすくお話いただきました。



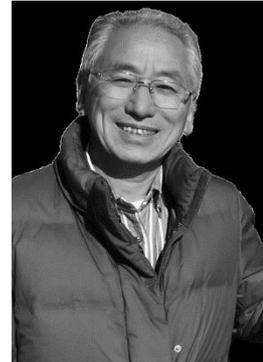
建築と社会～建築はどのように構想され、建設されるのか～

2021/12/18(土) 午後の部

佐々木晴夫 (25期) 元大成建設建築本部 参与

受講者：生徒37名・保護者38名

古代のパルテノン神殿・コロッセオから横浜ランドマークタワーや新国立競技場などの世界の素晴らしい建築物の映像をベースに、その工法の特徴や最先端の技術についての講義はあっという間の時間でした。「いかにして良い建物を造るか」を追い求めてきた講師が、正に「地図に残る仕事」を実践されてきた具体的な話は生徒や PTA を魅了していました。



デザイナーの仕事

2022/6/11/(土) 午前の部

根津 孝太 (西40期) znug design 社長

受講者：生徒48名・保護者43名

「日本のものづくりを元気にしたい!」「ロボティクスは人をシワセにできるのか?」等の問題意識をコンセプトの根幹に据えて、世界を駆け巡るデザイナーの数々の作品やその発想のプロセス・こだわり・そしてコミュニケーションや仲間づくりの大切さへの思いの詰まった講義でした。映像や大量の写真を駆使したスピード感ある講義には生徒も保護者も時間を忘れて引き込まれ、生徒からの質問タイムも講義内での30分では終わらず場所を西高会館の食堂に替えてさらに1時間近くも生徒や保護者が並んで行われていました。



整形外科医・監察医・政治学博士～行き当たりばったりの生き方～

2022/6/11(土) 午後の部

小久保亜早子 (西33期) 蕨私立病院整形外科部長

受講者：生徒45名・保護者60名

西高時代・医学部の選択プロセス・整形外科医の仕事・監察医への道・そして国境なき医師団でのボランティア活動・さらには政治学博士となりジェンダーについて考えたこと等の自分の歩いてきた道を、パワーポイントを使いながら淡々かつ丁寧に話していただいた講義でした。特に大学の医局の話や女性整形外科医としての苦勞、パキスタンやナイジェリアでの限られた設備や厳しい環境での医療活動等の話や映像はとても刺激的であったのではと思っています。

